



す ま い る

梅雨が明け、一気に日差しが強くなりました。子ども達は、夏休みを前に自分のロッカーを雑巾がけしたり、たくさん絵本を借りたりしています。あっという間に1学期も終わりですね。コロナ感染症の収束を願いながらもなかなか減らない感染者数に心を痛めていました。しかし、今年度は、行事の在り方等を見直し、どうしたら感染リスクを下げられるかを考えながら、今できることをやっていこうと少しずつ経験の幅を広げていくことができました。保護者の皆様、地域の皆様、いつも温かいご支援やご協力ありがとうございました。

始業式では2つの約束を交わしました。一つは「挨拶をする」です。登降園時に保育者や友達だけでなく園を訪れた方や地域で出会った方々に、しっかりとご挨拶ができました。言葉を交わすことで、人とのぬくもりを感じたりコミュニケーションのきっかけになったりし、その心地よさが伝わったのではないかと思います。もう一つは「好きなことをみつける」です。水や砂の感触、ごっこ遊びの中での友達とのやり取りを楽しんだり、生き物の世話をしながら関心を深めたり子ども達はどんな好きが見つかったのでしょうか？好きなものがあるということは、もっとやりたい・できるようになりたいなどの意欲や頑張ろうとする粘りづよさ、その中で得た知識が豊かになります。友達と同じだったり違ったり…。一人の好きなことが友達へ広がったり、深まったり…。終業式に子ども達に聞いてみようと思います。どんなことを話すのか楽しみです。そして、「幼稚園が好き」と言ってくれる子ども達に感謝です。

七福神巡りと地域の方とのかかわり

「自分達の箱根をもっと知ろう」と箱根神社の恵比寿様から始まった七福神巡りは、駒形神社の勇気を与える毘沙門天、阿字が池弁天の美と芸術・知恵を与える弁財天、興福院の笑顔と平和を与える布袋尊、本還寺の家庭円満・長寿を与える寿老人、山王神社の人望と健康を与える福祿寿をお参りすることができました。いまある幸福に感謝をし手を合わせ、お参りをするとスタンプがいただけます。それだけではなく、興福院では由緒ある仏像やちょっぴり怖い閻魔様を見せて頂き、駒形神社では宇宙の起源の神様がいることに驚き、本還寺では鐘をつかせていただくなど、どこへ行っても地域の方が温かくもてなしてくださいました。「かわいいね、いいこだね。」と子どもの存在そのものを褒めてくださることで、子どもは喜びを感じていたでしょうし、職員も地域の方に愛されている子ども達を見て、幸せと感謝の気持ちを改めて持ちました。お話を聞かせてくださった渡邊様、山田様、川辺様、緒方様ありがとうございました。そして、「七夕の笹が必要でしょ？取りにいらしてね。」と園の子どものことを気に掛けて声を掛けてくださった田中様、子ども達が喜んで七夕飾りを持ち帰ることができました。



お知らせ

芦ノ湖夏祭りウイーク絵画コンクール
特別賞・ライオンズクラブ賞 5歳児 井出空希さん
銀賞 3歳児 石崎聖菜さん
おめでとうございます。

1年生からのおたより

先月、箱根の森小学校1年生の青山桃代さんからお手紙が届いたことをお伝えしましたが、今月はもう一人の1年生、小川零琉君からお手紙が届きました。

「みんなへ。おんしこうえんのこいがふえたよ。いつかまたようちえんにあそびにいってもいい？しょうがつこうにきてもいいよ。」おがわ れいごより

恩賜公園の袂にある池は幼稚園時代の散歩コースでした。そこで鯉にパンをあげていたことが印象に残っていたのです。そんなおしゃれな書き出しと幼稚園児と共有できる文章に驚きました。小学校に来てもいいよ。のお誘いに子ども達は大喜びです。

「れいごくんにおへんじ、かきたい！」そう言って手紙を書きだした子ども達。

3歳児は好きな絵を描いて気持ちを伝えます。直接関わったことはないけれど、手紙をもらえた嬉しさがあるようです。文字に興味のある4、5歳児は、友達と教え合いながらひらがなで返事を書きました。文字に対しても幼児教育はまさに生活や遊びの中で習得していきます。今回のように、「書きたい！」と感情が動くことが大切です。そして、手紙のやり取りをすることで離れた人へも気持ちを伝えられることを知ります。また、5歳児が集会の時などの準備の時によくプログラムを書いています。それを書くことで、一人一人の考えを共有し、考えたことを忘れないですむことも知ります。自分たちの遊びや生活の中で「〇〇したい」という気持ちや必要性を感じる気持ちを先生たちは引き出しています。

